

第27回 特定業者との随意契約に関する調査特別委員会

開催日時	令和7年12月1日(月) 議会終了後
出席議員	委員長：武道 修司 副委員長：宗 裕 委員：工藤 久司 委員：田原 宗憲 委員：池亀 豊 委員：吉元 健人
事務局職員	局長：桑野 智 係長：瀬戸 美里

午後2時52分開会

○委員長（武道 修司君） 第27回特定業者との随意契約に関する調査特別委員会を開会をいたします。

本会議、全員協議会に引き続きということで本当にお疲れさまです。

本日の協議事項です。最終報告書の作成についてということで、前回の原案を皆さんに見えていただいて、修正をする箇所ないし追記をする箇所を本日持ち寄って、最終的なものを作り上げようというふうになってますが、皆さんのほうから何かありますか。吉元委員。

○委員（13番 吉元 健人君） お疲れさまです。前回の百条委員会の際に、報告書の内容で、もうちょっと事細かに断定したほうがいいんじゃないかとか、そういうちょっと内容を突っ込んだ部分を指摘させて、文章的にも改善できるなら、今日言っていただければみたいな内容だったとは思んですけども、そもそも、すみません、事前に委員長には相談すればよかったかなと今思う部分があるんですけども、ちょっと言っておいたほうが良いと思うので冒頭に言います。

僕、12月で終わるスケジュールで自分もやってきました、もちろん。最終報告書、先週、最後見せてもらって、自分なりの意見を言わせてもらったつもりです。この週末、金土日、考えた内容で冒頭言わせてもらえるのであれば、調査・捜査等、いろいろ皆さん言われたり、僕らもそういうふうには言ってますけれども、ここまで踏み込んだ百条委員会、このメンバーだからやれたとももちろん思ってますし、すごい濃い内容でこの半年間やってきたとは思んですけども、やっぱり調査した内容を本当にまとめているのかということとこがこだわる必要はあるのか、ないのか、まず皆さんと確認したかったのと、そもそも、悪いからこいつを罰しようとかいうための百条委員会じゃないわけじゃないですか。そもそも皆さんと最初から集まってやって。要は、こういう問題があつて、今後行政としてどういうふうに取り組んだり改善したりということが、明確に判断、本当にもう今できているのかなと思って、僕は自分の中で何が改善できたのかなというのが全然分からないんですよ。逆に、おまえた悪いじゃないか、こうしとるじゃないかという揚げ足取りをただけみたいなのところにも思うんで、僕がですね、調べたらこういうことがあつたけど、これがいいのか、悪いのか、悪いと言わんのなら、こっちで断定するよとか、じゃなかったですかね、今までの流れは。

ただ、それは資料として出すことが目的じゃなかったはずなのに、最終報告書の最終的な総括的な部分、まとめの部分で、今後、第三者委員会等もすべきとか、ここに対してどうしろとかいう強いやっぱり内容があつたほうが僕はいいんじゃないかなと思ったんで、すみません、先に言わせてもらったんですけども。

先ほどの全協のときでも、武道委員長も別件で言われてましたけど、何か中途半端に終わるわけには僕はいかないと思っているんです、今のこれだけの内容を見てですね。前回、委員長、副

委員長には僕は何日か前に相談したんですけれども、9月議会で告発の内容もありました。まあ否決されましたけれど。その辺も百条委員会が終わって、個人でやるよとかいう内容では僕はないと思うので、百条委員会としてどのように取り扱うのかなとかいうのも、ひょっとすると今日で終わりの可能性もありますよね。なので、後の、今後のスケジュールのところになってくるかもしれないんですけれども、そういう部分も全部踏まえた上で最終報告書、もう最後だと思うので、出る内容はですね。で、解散した後に「実は」とかいうわけにもいかないと思いますので。

そもそも12月議会で僕は間に合わない可能性のほうが強いんじゃないかなと、この3日間ぐらいで思ってしまったので、本当は解決できるように、自分の中で腑に落とすようにはしてたんですけれども、委員長にも相談できずに今日冒頭で言わせてもらったのは、そういう内容です。

○委員長（武道 修司君） で。

○委員（13番 吉元 健人君） 「で」と言われると、僕はこれ最終報告書じゃないと思うので、最終報告書として委員会を終わらせるわけにはいかないんじゃないかなという意見です。

○委員長（武道 修司君） ちゅうことは、もう百条委員会は終わらないと、終わらせないと。

○委員（13番 吉元 健人君） いや、僕の意見ですよ。それなりに自分なりに思ったことを言っていていい場とってたので。

○委員長（武道 修司君） だから、吉元議員は、百条委員会はまだ終わらせないと、という意見。

○委員（13番 吉元 健人君） いや、終わらせたら中途半端にならないですかというのを皆さんに聞いたかっただけです。答え、何も出てくないかなと思っているんです。

○委員長（武道 修司君） はい。皆さん御意見何かあれば。工藤委員。

○委員（5番 工藤 久司君） この最終報告書、委員長が本当に一生懸命してくれたのがあって、本当に何かこう、本当にありがたいというか、しっかりまとめてくれてるなという思いで、ずっと読まさせてもらいました。これをたたき台にして付け加えるところがあるなら、また厳しい意見に文書的に修正するんならということで理解をしてました。

吉元議員のまだまだという気持ちは全然理解できないわけではありませんが、どこかで1回けじめをつけるということに関しては、この最終報告書に関しては、委員長の報告書を私は、何としようね、これで最終報告書としても出していいのではないかなと思っております。

どこまでが目的なのかというのは、私自身が、申し訳ないですけど、じゃあどこまで行ったらというのがなかなか見えないので、ここまで本当に皆さんで頑張ってきて、私はついてきたただなあって前回も言いましたけど、本当にいろんなことが分かって、これから執行部なり行政サイドがこういうものに関してきちっとやらなければいけないという戒めというか、大きなきっかけになって、過去のことを見逃せというわけではありませんが、大分解明もできてきたことがありますので、この最終報告のまとめで肉づけをするという形で私はいいと思います。

○委員長（武道 修司君） ほかに。田原委員。

○委員（4番 田原 宗憲君） すみません。前回ちょっと自分は欠席してたんですが、ちょっと吉元議員に聞きたいんですけど、その吉元議員が言うのは、この最終報告書に関してどういうことを今言いたかったか、俺、ちょっと理解できなかったの、詳しくもう一回説明を。

○委員長（武道 修司君） 吉元委員。

○委員（13番 吉元 健人君） ページ数で言ったほうがいいですかね。例えば圧力ポンプの内容なんですけども、ここでの証言を、最終報告なんで、最後しゃべった方、その件は多分下田課長補佐だったと思うんです。その午前中に繁永さんだったと思うんですが、朝一番。そのときの内容は、この日に間違いありませんよというのをこの報告書には書いてるんですけども、あの方たちはその以前からその工事をやってたという、ありもないことを述べてるのは、僕はすごい重大だと思うんですよ。

そういうことを付け加えていったりすると、要は僕らって、最初から宗さんも使ってくれてましたが、真実は本当に一つしかないのに、このまま終わらせると、真実を求めるための委員会でもないかもしれないです。ただ、ある程度明確になりつつあることが明確になってないまま閉幕してしまうのが大丈夫なのかなというのがあるだけで、中間報告に肉づけしてくれて物すごく大変で、いい、すごい内容にはできているとは思うんですけども、この文書だけを初めて見た人はそういう背景はもちろん分からないし、ユーチューブ見てない人は分からないですね、これ今後上がってくると思うんですけども。それに対して、さっきちょっと触れたけど、僕らが告発するためにしてるわけじゃないけど、役場側がしないのであれば、それで終わりですよ。もう百条委員会も閉会してしまっ、何もなくなってしまえば。

そういうところも踏まえて、この書類はある程度残るんでしょうから、公開もされるでしょうし。そやけ、何と言うたらいいか、12月で終わらせようとして皆さん動いて、僕もそれなりにやってきたつもりですけども、委員長も寝ずに多分やってくれて、途中経過も僕は多分皆さんより知らせてもらっていたほうだと思うので、けちをつけているわけでは全然ないんですけども、いざこれが最後で本当にいいのかなというのがあったので、あくまでも百条委員会として皆さんの意見で出さなきゃいけないところも踏まえているので、あくまでも僕の意見なんですけども、もうちょっと真相、調査ができたんじゃないかなというところを述べただけです。書類にもなってないし。

○委員長（武道 修司君） 田原委員。

○委員（4番 田原 宗憲君） 前回出席してなかったんで、お任せするちゅうふうに自分も思うとって、今の言ってる箇所に関しては、具体的な、もしそれが足りない、最終報告書は一応出さなきゃいけないんでしょうが、それを、その日にちを特定するんじゃなくて、完璧に、もう少し

足りないところは、吉元議員が言っているのであればね、それに対しては、委員長も多分徹夜でこれ作ってくれた書類だと思うんですね。だから、そこを中途半端に、百条委員会のメンバーが完璧にこれでいいですよまで、それを日にちをかける必要は多分ないと思うんですけど、おかしところ、もう少し補足する点があれば、それを完璧にしてからでもいいと思うんで、どこがおかしいという点がもし、ほかの宗さんにしても、久司議員にしても、池亀さんにしてもね、あるのであれば、それもう一回見直しを、そのところがあるのであれば見直しをもう一回して、委員長と相談しながら完璧にさせていただきたいなと思います。

○委員長（武道 修司君）　そうですね。だけん、一応先週ですね、金曜日やったか、皆さんと話をして、その日のその日じゃ出来上がらないだろうから、土日を利用して読み込みをしていただいて、追記をする部分、修正する部分を今日みんなで持ち合ってね、最終的な原案を作ったらどうでしょうかというふうになってたんです。

で、調査自体がまだ足りないというのであれば、調査しないといけないんで、9月議会——12月議会でもう終わるちゅうことができないということに多分なるんだろうと思うんです。で、調査をして、例えば今から証人喚問を呼ぶとかなんかするのであれば、また……。吉元委員。

○委員（13番 吉元 健人君）　すみません。調査しなくていいか、悪いかというのは、皆さんでもちろん決めるべきだとは思いますが。ただ、僕は、今言った内容、皆さん、どっちが本当でもう決めつけてできるんですかね。シダックスの方たちはみんな、11日、1日で終わって、その日に通報したというふうに言ってるけど、ほかの2人は事前にして、やってたんで、その部分が入ってますよというふうな内容になっているんですけど、そこをもう明確にしている書類にはなっていないと思うので、そこをしなくていいんですかという質問をしているだけです。で、調査しなきゃいけないと僕は思っているんですけど、日にち的に無理なんで、そこをどういうふうにすればいいのかなというのを相談しているだけですかね。

○委員長（武道 修司君）　11月の——10月か、繁永さんと下田君と呼んだ案件のときに、一番最後、後でちょっとあれやったらその音声をちょっと聞いてもらったほうがいいかもしれんけど、加工する必要はなかったんだという話を説明したら、繁永さんはそのときに、もうそれならそれで、もうそれでいいわみたいな言い方をされたんですね。それが議事録の中に残っているか、残っていないか、ちょっと今はっきりしてないということがまず1点と、下田課長補佐は、多分、多分みたいな感じで話したんです、そのとき。多分というのは証言にならないんですね、確定じゃないんで。証拠もない、何もなし。逆に証拠は10月11日になっている。で、その前だった。9日はない。8日はない。7日は雨。その前は散布をしてない。その前は流し込みをしている。もう無理やったんです。

で、その話をしたら、いや、多分行ったような気がするみたいな話だったから、多分みたいな

話はせんでくれと。そしたら、分かりましたというふうになっているんで、それはその前にはもうないということでもいいのかなというふうに思っているんで、その部分はこの中に書いてませんが、証言の中でそういうふうな証言をされてたということを書くのであれば、それは書いてもいいのかなって、前回ですね、吉元議員がそう言われてたんで、もしそれを書くのであれば、この文書にそういうふうな部分を追加をしたほうがいいのかというのであれば、その文書を作っていたらということでもちょっと話をしたというのが金曜日の話だったと思うんです。

だから、もしそれで済むのであれば、そういうふうにあれだし、いや、もうとことんこれは両方呼んで、何ちゅうか、その真相究明。毎回、繁永さんから、大任の業者から、下田君まで呼んで、徹底的にこれは確定までさせるんだということまで行くのか、どうなのかという部分でやるちゅうのであれば、ちょっと今回当然終わらないだろうし、これは多分毎回同じように、多分、多分みたいな話はまたしてくるだろうから、それは我々がやる部分なのか、どうなのかという部分にはなってくるのかなというふうな気はしてるということで、ちょっとまとめに入ったほうがいいのかというふうに思っているところです。宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 私のところマイクないんだけど、地声でいいですか。地声でもいいけど、拾ってくれるなら。

○委員長（武道 修司君） それは局長、局長。宗さんにしゃべらせんようにしとったんやないの。

○副委員長（宗 裕君） そんなことないよ。俺、いつもマイク無視して大声でしゃべとる。

○委員長（武道 修司君） いやいや、しゃべらせんようにしとったかもしれん、局長が。宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 副委員長として重大な責任を感じているって前置きしてしゃべります。

私もね、この3日間、週末考えたんですけど、自分に甘かったなと思っています。というのがね、一般質問でもががんにやらせていただきましたし、今回やっぱり甘い気持ちで関わられるような問題は取り上げてないんだと改めて思ったんですよ。結局ね、我々はいいい子になろうとしてね、曖昧な結論を出すという最終報告書にしちゃっていると改めて思ったんです。

最低限、刑事告発議案を出したんですよ。私が提案者、吉元議員と田原議員は賛同議員。だけど、武道さんと工藤さんも賛成してくれたじゃないですか。ということは、あの時点では、あれは詐欺である、あれは官製談合であるという判断だったわけでしょう。だけど、この最終報告書は、あれは架空請求であるという断定までは踏み込んでない。

確かに刑事告訴の段階では断定しているわけではなくて、極めて強い疑いがあるって、我々の調査権は限界があるし、町長、執行部側が全くまともな調査をする気持ちがないから、私もそういう意味を込めて刑事告発議案を出しただけであって、これはもう警察に委ねるしかないと思ってる、今でも思ってますから。町長がしっかり事実を認めて、自ら適切な調査をするんであ

れば、あそこまでする必要はなかったと今でも思ってます。ただ、町長の態度はいまだ変わりませんから、その点の気持ちは一緒です。

裁判でもね、民事裁判でも、状況証拠しかなくても、裁判官は最後は自らの心証をもって、疑わしきは断定しないけど、確証を持っていたら断定するんですよ。我々もそれから逃げてはいけない、甘いと。委員長、申し訳ない。

私は、今出ている証言から、あれは一部は、全部とは、全部は絶対難しいけど、一部は、3万円相当ぐらいかもしれないけど、間違いなく架空請求。そして、清掃センターの先に工事をやっている分は、どう考えても官製談合。それはやっぱり百条委員会が断定できるところまで、いや、結局徹底的にやったけど断定できるところまでは至らなかったって書くのならいいです。だけど、疑惑がある、どちらか分からないじゃ、やっぱり自分たちの覚悟が足りないと、すみません、この週末反省したんです。

率直に言わせてもらって、あれだけの内容の動画がユーチューブに出てて、昨日も基地で中津の知り合いの市議員から「すごいね」と言われてしまいました。あの動画で流れている内容で、問題だ、疑惑があるって済ませるんだと、あのセンセーショナルな動画の内容とこの最終報告書では、ちょっと責任を果たしたとは言えないなど。委員長、ごめんなさい。だから、私も、もっと副委員長として、もっと早めに、どうか、どうかと言わなきゃいけなかったんですけど、ちょっと私も甘かったんです。

それと、下田さんに関しては、委員長のまさに武士の情けで、ここでは「自信がありません」というところまで言わせましたけど、これは正式な調査ではないんで言うべきではないかもしれませんが、別件で液肥センターで事故があったときに現地で聞いたら、あのときのあの態度はなんだという感じで。あのときに「分かりません」と言うんなら、まだ分かるけど。

ですから、私は、下田さんが偽証した、偽証として告発しろ、そこまでは思いません。ただ、何が真実だったのかというのは、私は今でも十分断定していいと思ってるんですけど。その踏み込むのは人によって、これだけの証言と証拠では踏み込み難いという気持ちは分からないわけではないんで、であれば、やっぱり調査は尽くせてないと思ってますし、次に別の角度の話をお願いします。

よくよく考えると、何で12月がケツで、12月が期限のような前提条件で、12月に結論を出さなきゃいけないのかって改めて考えてみると、大して根拠はないなど。ちょうど12月議会と3月議会の間では町長選挙もあって、町長も替わるしぐらいの根拠しかないから。そりゃいつまでも引っ張って、長時間だらだらやるのは望ましくないと思ってます。幾らやっても調査は尽くせないぐらいの問題がありますから、でも、ここまでやれば一応報告できるというところには、調査内容ではなくて結論が、申し訳ないけど不足していると思ってます。

今の調査内容で、さっき、もう一度言いましたけど、架空請求とか官製談合であると百条委員会として判断するところまで踏み込めるんなら、私も満足ですけど、その踏み込む覚悟がまだ持てないと言うならば、やっぱりこれは最終報告としては、委員長申し訳ない、私はやっぱり賛成できないと思います。

以上です。

○委員長（武道 修司君） なら、もう賛成できないということであれば、もう報告もしないということでもよろしいですか。どういうこと。（「そういうあれじゃないんよ」と呼ぶ者あり）どういうこと。

○副委員長（宗 裕君） いやいや、最終報告はいつかしなきゃいけないですよ。ただ、現時点で最終報告はまだ。また、私も言ったじゃないですか。そういう覚悟で断定、皆さんが断定できると、私は断定できるって今言いましたから、言ってくれば、それで最終報告でいいんじゃないかと思っています。

○委員長（武道 修司君） すみません。前回からの会議で最終報告書を作ろうということで、ずっとこの何回も会議したんですよね。最終報告書の原案を作りますよということで、最終の報告書の原案を作ってくださいちゅうことをやったから、金曜日に出した。で、これから最終的な調整をしましょう、修正をしましょうちゅうて、調査は終わってないちゅうんであれば、もう最終報告書はこれ出されないですよ、今回。田原委員。

○委員（４番 田原 宗憲君） 一応予定では４日の日ぐらいをめどに最終報告という、多分案かな、か、１２月いっぱい議会のどこかで最終報告をとというふうに多分なつた。それを予定じゃなかったですかね。

○委員長（武道 修司君） 前回、スケジュールで、１２月の１日、本日ね、できればいいけど、ちょっと間に合わないねということで、４日の日に最終報告をして、１０日の日にほかの議員の皆さんからの御意見、質問を聞いて、その上で修正する部分が発生すれば修正をかけて、最終的に１７日に終結という形を取ったらどうだろうかという話です。スケジュールはね。田原委員。

○委員（４番 田原 宗憲君） 一応今の段階として、百条委員会ができることは恐らくもう限られてるし、一応その捜査、私たちは調査までしか多分できないですね。その中で、もうこれは絶対間違いないよというのがあるんですよ、この物件を百条委員会の調べた中で。それを今、多分吉元議員が言ってるのは、そこをとことん、何ですかね、自信を持てる文書にせえちゅうことを言いたい。そうじゃないんかね。で、回答を……。

○委員長（武道 修司君） 吉元委員。

○委員（１３番 吉元 健人君） 例えば、データでもらった分ですけど、証言拒否等、９番の９項目。

○委員長（武道 修司君） 何ページ。

○委員（13番 吉元 健人君） 47ページですかね。すみません、僕、紙で持ってきてなくて、データで見てるんで、ずれてなければ47ページのクローラ車と、住民生活課の14件の内容と、産業課の課長、元産業課、あとT氏の印鑑の証言の部分、3件なんですよ。

これクローラ車に関しては、10月10日に修理をして、事務処理の日付が違うというのが虚偽になってるんですけども、あの人たちの虚偽とすれば、そこは認めたが、前々日の作業を行ったという証言も偽証と問われるというぐらいまでしておかないと、これ日付が違っただけじゃねえかと言われると思うんですよ。例えばですね、付け加えを言えと言われたので……。

○委員長（武道 修司君） その日の議事録聞こうか、ちょっと今から。

○委員（13番 吉元 健人君） 聞くというか、聞かんというか、武道さん、この前、検査したときも、下田さんはどういうことを言ってたかという、「僕は本当のことを言いよるのに、みんな何で信じてくれないかな」というふうに言ってたじゃないですか。あれ後日ですよ、ここで発言した。

で、そこを僕らは聞く、聞かんというよりも、繁永さんのその発言も「それならそれでいいや」っち言いよるけど、本人が納得した言葉じゃないじゃないですか、それならそれでいいやちゅうのは。

○委員長（武道 修司君） じゃけ、その言葉を聞いてね、今の吉元議員の言う言葉を入れるか、入れないか。

○委員（13番 吉元 健人君） でも、その前にはうそをついてるわけじゃないですか。

○委員長（武道 修司君） だから、いいよ。入れないちゅうんじゃないよ。入れないちゅうんじゃないで、今のその吉元議員の言う言葉を聞いた上で入れようかちゅう今話よ、前向きな。

○委員（13番 吉元 健人君） あんな曖昧な返答。

○委員長（武道 修司君） 宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 私も覚悟を持って言ってます。副委員長という重責を担いながら、この時点でこんなことを言うのは、もう無責任というか、副委員長の能力不足ですよ。

でも、私は、下田さんを詐欺をやったと告発した立場から言って、今でもそれ、どこまでが詐欺かは別として、一部は詐欺ですよ。繁永さんと結託して、やってもない仕事の書類を作って請求してますが、そこにはこの最終報告書は踏み込んでないんですよ。

○委員長（武道 修司君） いやいや、だけん書いていいって言いよるやないですか、ずっと。

○副委員長（宗 裕君） いやいや、そうではなくて、架空請求だと断言するという方向性ですか。証言を書くのと、委員会としての判断をするのは別でしょう。

○委員長（武道 修司君） 宗議員、ちょっと冷静に。この前言ったのは、私はあくまでこれペー

スになるものを作ったんで、これの文章を変えるところがあったり、追記をする部分があったり、そういう部分があったら今日持ち合わせてやりましょうちゅう話をしてるんで。（「今みたいな内容でいいですよ」と呼ぶ者あり）そうそう。（発言する者あり）だけん、それを出してもらわないとできないし、そもそもこれ調査自体が終わってないから、こんな最終報告書を作る必要もないやないかちゅう意見であれば、それはもう……（「いや、そういうふうには言っていない」と呼ぶ者あり）

○副委員長（宗 裕君） 最終報告書を作る必要がないという意味が分からないんですけど。

○委員長（武道 修司君） だから、もしその調査がまだ終わってないちゅうんであればね、今から証人喚問やったりとか、そういうふうなこともやらないけないけど、もうその調査は一応終了した。この最終報告書を作る段階で追記……

○副委員長（宗 裕君） 委員長、ちょっと悪いけど、調査が終了したっていうのは議題に一度も上がってないし、私は同意した覚えがないです。調査を終結の方向で議論をまとめようっていうんなら分かりますけど。

○委員長（武道 修司君） いやいや、ちょっと言葉が……

○副委員長（宗 裕君） そこは正確に言ってもらわないと。終了してませんよ。

○委員長（武道 修司君） ちょっと待ってください。だから、あくまでも1回ここで最終報告書を作りましょうという協議になったんじゃないですかね。やります（発言する者あり）ですよ。だから、最終報告書を作るちゅうことで、今その原案を作ってくださいということで作りました。先週金曜日、これじゃちょっと物足りん部分があるから追記をしましょうということで、今日、追記のものを持ってきてくださいということだったと思うんですけど、違いますかね。

○副委員長（宗 裕君） 違います。大変申し訳ないけど、追記というレベルでは駄目ですね。もっと踏み込んで断言すべきだと発言したんです。私も前は、前は（発言する者あり）ちょっともう言わせてください。前はね、全員が納得できるレベルはこれだと思ったんです。だから、前は全員誰からも文句が出ないレベルはこのレベルと思ったんですけど、それではやっぱり私は甘いと思ってて、全員から文句が出ないレベルを今の時点でまとめようとしたら、これだと思うんですけど、じゃあ、ちょっと一部の委員の方から、相異なる2つの発言の片方も信用できないというような発言が出てくるから、あれが架空請求であると断定するのはちょっと今の時点では無理とかいう発言も過去の議事録に出てるじゃないですか。そしたら、そこはやっぱりもうちょっと追及しないと一とは思ってるんです。

○委員長（武道 修司君） だから、どうするんですか。だから、調査を続けましょうって今言っているのか。

○副委員長（宗 裕君） 結論から言うと、調査を続けるしかないというふうに意見が変わっ

てます。（「調査を続けて、出ますかね、これ」と呼ぶ者あり）全てを調査するのではなくて、ここまでやれば納得だということまで調査すべきだと思うんですけど、私は現時点では納得できるレベルじゃないと思います。

○委員長（武道 修司君） すみません。宗議員が今納得できてないということなんで、ちょっと今日はもう協議やめましょう。この最終報告書は私が前回から話をして、この最終報告書ということで話をして、これでいいですということで、あと追記とかそういうのは修正をしていきましょうというふうな流れだったと思ったんですが、捜査が——捜査というか、調査がまだ終わっていないという今御意見がありましたので、調査をこれからするか、しないか、証人喚問どうするか、現地調査どうするか、資料請求どうするかというところの部分もちょうとやらないとですね。その上で、どういうふうにしていくかというところをちょっと協議しないと。

私は、何ちゅうか、最終的にはこの6人が方向性を一つにして最終的なものを作り上げるというふうにすると思ってたんです。ここでちょっと最終的に一つのものにならないのであれば、あえてここで最終報告書を出す必要もないし、百条委員会自体を終結する必要もないんだろうと思うんです、終わってないんだから。終わってないのを終わらせるわけにいかないからですね。

だから、それで、今日はもう最終報告書がまとめるというふうな状況に今ないのかなというふうに思いましたんで、後、一応終わってですね、ちょっと事務打合せで今後どうするかというところはちょっとやりたいなというふうに思いますが、どうでしょうか。工藤委員。

○委員（5番 工藤 久司君） 先ほどの宗副委員長が、みんなが理解できるレベルはこれぐらいだろうと、でもやはり、いやいや断定できるものはしようよ、こうだったと思うんです。私も、それは前回も言いましたけど、やはり確定しているようなものって私の中でもあるんですが、ただそれが言葉として、文書として出すのはどうだろうかというところがあったんですが、今、吉元議員も言ってたように、確実にというところは私もあるような気はするんです。

ただ、委員長が言ってるように、それが本当にかかって言われるとということはあると思うんですが、私も、ちょっとこう返ってきたのが断定した文面で最後どうだろうかというのをちょっと、何とか例えば考えるというべきを、もうそのまま、すべきであるとかという形で、第三者委員会とか内部告発もという言葉で、この文書に限ってはですね。ただ細かい内容に関しては、今、宗さんが言ったように、吉元議員が言ったように、ここはその文言に付け加えてください、それで納得をするという形であれば、最終報告という形でいいという理解なんですよ。

○委員長（武道 修司君） 宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 大変申し訳ないんですが、これはもう委員長批判になってしまうんだけど、やっぱり厳しく覚悟を持って言うべきだけど、委員長は下田さんを救おうとしているけど、私、下田さん、免罪にはできないと思っているんです、ああいう曖昧なことに追い込んで。

証言を、いや、うそをついているから、追及されると曖昧になるって当たり前のことだけであって、だったら彼が知ってるはずの真実の一つも語ってないし、「いや、実はこれは契約内容も事実と異なる点がありました。申し訳ありません」って謝罪もないし。

そこはどうするんですか。書類にはっきり書いていることを、記憶が曖昧って今になって言い出しているのに、その書類の真実性を我々は踏み込んでない。ずっと考えてたんですけど、それは甘いと思っています。（「踏み込んでいいんじゃない」と呼ぶ者あり）いや、委員長は踏み込まないという方針だと私は感じたんで。

○委員長（武道 修司君） いや、書かないとは言っていないですよ。（発言する者あり）あくまでもこれはベースだから。

○委員（13番 吉元 健人君） だけん、今さっきみたいに言えばいいんですよ。もう一步、としてほしいとか、今さっき、考えるをすべきとかいうふうな会話でしょう。

○委員長（武道 修司君） ただ、それを私は今日はしてほしいんですけどね、まだ調査が終わってないということで、宗委員が調査をまだされるちゅうんであれば、今日はもうこの最終報告書を作るというよりも、次の調査、証人喚問をどうするかとか、そういうことをしないといけないのかなというふうに思ったんですけどね。宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 私、ちょっと名指しで悪いんですけど、池亀委員の意見を聞きたいんですよ。池亀委員は、このメンバーの中では前回の刑事告発議案には唯一賛成されなくて、いや、それは池亀委員の判断ですから、私、悪いとか言ってるんじゃないくて、池亀委員は、ああ言い切るには情報、資料が足りなくて納得いかないって明確におっしゃってましたから、そこは、ある意味、6人が同じ結論に達してない、足りてない部分だと思ってるんですよ。今、そこは言い切ってもいいって池亀委員を外したところで我々議論してますけど、池亀委員はその辺はどう思われますか、あれは架空請求である、下田課長補佐はうそをついてるっていう点に関しては。

○委員長（武道 修司君） 池亀委員。

○委員（14番 池亀 豊君） 下田証人は、僕の感じでは、うそは言っていないと思います。私の思いですよ。下田委員は一生懸命答えてたと私は思ってます。確かにあやふやなところはありますが、自分の答えられる範囲で一生懸命答えていたと私は思いました。今もその思いは変わっていません。これは私の思いですから。（発言する者あり）

○委員長（武道 修司君） 田原委員。

○委員（4番 田原 宗憲君） 私の思う、例えば繁永証人と下田証人は、私たち百条委員会の調査妨害をしてるのかなというふうに私は思います。何でかと言うたら、私たち百条委員会は10月11日の資料を基に調査してるだけなんですよね。その中で調べた中で、あのときの証人の繁永さんが一番初めに強調した、何ですかね、「先週にしたよ」という言葉。ただ、同じく下

田課長補佐も「証人の方とお話ししたことがありますか」と言うたら、「ないです」というふう
に言ったんですね。ないですと言った割には、下田さんの回答はその話題から入ってきたんです
よね。だから、えって、それに関して証拠があるかというのと、証拠はないわけやないですか。だ
から、その百条委員会の調査の妨害をされてるのかなというふうには私は思うてるんですよ。

だから、百条委員会が捜査はできないから、だからこれを今後例えば調査として田川の修理の
方を呼んでも、真実は多分出てこないかなというふうには。私たち百条委員会は、10月11日の
うその起案書、10月11日は一応確定してるわけじゃないですか。それに関しての強い架空請
求に値する疑いがあるということをはっきりこう、何ですかね、中途半端な回答は避けるべきだ
し、池亀議員が言うのは、下田課長を疑う、疑わんの前に、ポンプの状況の分を1から10まで
把握した上ですれば、これが本当なのかな、うそのかなちゅう判断は多分分かると思うん
ですよ。

だから、うそを言ってないと言われても（発言する者あり）いや、池亀議員が。私たちは1か
ら10までずっと資料を見て、現地にも行って、話を聞いて、相手の方の、包括業務の方の、何
ですかね、意見も正直耳に直接聞いているし、だからそれが本当に下田さんが……。自分も考えま
したよ、下田さんが言いよることをちょっと信用してあげたいなって思うけど、その証拠はない
と言うんですよ、下田さん自身が。記憶しかないんですよ。だから、それを信用してやりたいで
も、私たちは、10月11日に修理をしたちゅうのは下田さんも認めているので、その資料を根
拠に調査をしよるだけなんです。これ以上、多分調査は多分できない。でも、下田さんが先週
にしたというのはどうしても信用できないと、100%信用はできない。

そこの判断を、今後もう一回証人として呼んでいって、ただ呼んでいっても多分結論はちょっ
と出ないかなと思うので、もうそこをある程度確定して、きつい言葉で、した後はもう願いとし
ては、新川町長がいるまでに、新川町長に判断を、しないんでしょうが、新川町長がおるまでに
判断をしてもらいたいなちゅうのが事実なんですけど、これ調査をずっと延々に、仮にそのポン
プ交換のところを証人として呼んでも、多分結果がちょっと出ない。だから、出ない方向であれ
ば捜査機関に依頼するちゅうことしかないんですよ。

皆さん、世間では、このまま多分百条委員会が結果を出したら終わるというふうには思っている
んでしょう。ねえ。だから、思っても、そこを文書で具体的な、池亀委員はうそじゃないと思
いますよちゅうたら。何がうそじゃないか、おかしいところはおかしいちゅうてやっぱり言っ
てもらわないと、全部がおかしくありませんよちゅうふうには言われても困るので、おかしいこと
に関してはおかしいという返答もちょっと聞いてみたいなと思うんですけど。この点に関してはお
かしいとかいうのがあってもいいと思うんですよ。だから、調査妨害をされるんじゃないかなと
いう、ちょっと気持ちもあります。

○委員長（武道 修司君） ちょっといいですか。まとめたいと思います。そもそも今回、12月で最終報告書を出すという方向はもう……（「出ないですか」と呼ぶ者あり）吉元委員。

○委員（13番 吉元 健人君） 僕が、すみません、冒頭に要らんこと言ったんで、こんなになったんですけども。当初ですね、触らなきゃいけないことをぐっと絞ってやったことの結末も、僕は全て出てないかなと自分なりに思っただけです、さっきの証言なり何なりを聞いた上で。委員長はそういうふうな音声聞いてみるって言いよるけど、本人たちは僕は納得した返答はもらってないと思ってるんで。

○委員長（武道 修司君） そのとおり。

○委員（13番 吉元 健人君） で、それなら、要はこっちからの追及とか後々何と言われるかわからないところでもあるので、僕らがそういうふうにしたと彼たちは最初言ってたんですよ。だから、音声を公開しろ、おまえらもう尋問のようにしているというのを、そこで僕らがのんで当たり前のことを言っても、世の中的にそうとは限らないということもあるし、じゃあ例えば、田原委員だったと思いますけど、レールの何かRDFの上部・下部・中央部、4つに分けた分割発注って、あれすごい金額だったと思うんですよ。で、百条委員会が終われば多分何も、もう迷宮入りすることもあるので、そこも皆さんでしっかり話したと思います、スタートに入っても、こんだけ長引くとも思ってなかったと思うし、逆に町長と副町長はこんなにあっさりこっちに向けてくれた部分もあったじゃないですか。

だから、僕らが思ったことと違うこともいっぱいあった中で、すみません、僕が新人ゆえに理解できてない部分もいっぱいあるとは思いますが、無理難題になっている部分もあるとは思いますが、本当にこのまま閉会をすべきなのかなというのが本当にこの3日間思っていたことなので、後で武道さんとか工藤さんとか宗さんとか池亀さんとか田原宗君とかに、あんときだけ思ったのにというふうに自分が思いたくなかったので冒頭に言っただけで、もちろん終わりも必要でしょうし、理屈的に今のメンバーでするのはこの議会でしないと、表明されている方がもう今2名いるので、次の3月議会にずらしましょうよとも思ってないんですよ。ただ、その理屈的に僕の理屈が通らなかったんで、皆さんにお伺いして、その自分なりに納得がいく答えが頂ければよかったのかなと思っっているんです、今思えばですね、最初にしゃべった内容は。

要は重箱のこの中でつつこうとも思ってないですし、当たらなければいけないことを、これに絞りましょうと言ったときに、皆さんで話し合っって3つ4つに絞ったわけじゃないですか。圧力ポンプとか、絞りましたよね、破袋機にしようとか何とか。そこで自分なりに思っていた中身は十分できたとは思っているんですけども、全部調査しようとも、もちろんできないことも分かっていますが、自問自答も踏まえて、先輩議員たちの言葉ももらいたかったんで、最初にそういう言葉になったのはすみません。

だから、12月議会にせんでくれっち言うわけじゃないし、皆さん、工藤さんとか武道さんと宗さんとか、みんなの意見が100点になるって僕このメンツでなるとは思ってないんですよ。ただ、どこで……。町民に言われたときに、どうなったんかちゅうのは皆さん絶対に答えたいメンツだと思います。あれ、百条委員会、途中……。最終報告して終わってしまったけど、本当は調べたかったんよねと言わないメンツだと思っています。そういうふうには逃げないように、ある程度の説明をおのおのができるメンバーだから、僕は「議会に感謝してます」という言葉を先月の一般質問でしたんですけども。

そこを問いながら最終報告を見ると、宗さんが言うように、厳しくすればいいというだけじゃないんですけども、町の人たちが思っている部分、触ってほしい部分が本当に触れているのかなと思って僕は振り返って見たら、先ほどのような追記した部分があるんじゃないかなと思ったので、1個は言いましたけど、あと二、三点あるので。

でも、そもそも今宗さんが中に、僕が言ったことで入ってくれたか分かんないですけど、終わらせるわけにはいかないと。終わらせる、終わらせないとかいうよりも、その終わるためにどうしたらいいか皆さんで話し合えるメンツじゃないかなと思うので。理屈的にもう2名抜ける、宗さんも表明するかもしれないとうわさも出ている。とすれば、僕と田原委員と池亀委員しか残らないので、で、新たに編成するというのも不可能なので、基本的に考えて。不可能じゃないかもしれないです。理屈的には再編成して一からやり直すちゅう方法もなくはないですけども、ただやっぱりそこをもって首長の選挙に皆さん出ていただきたい部分もあるので。

すみません、まとめ方がちょっと分かんないですけど、決して延ばしたいから僕は冒頭言ったわけじゃないで、皆さん納得してるのか、してないのか、もうこれ以上はしようがない、できないだろうと思っているのかというのが、やっぱり武道さん頼りになってた部分が申し訳ないなというのもあるんですけども。

○委員長（武道 修司君） どこまでしたいかをちょっとこう、吉元委員がどこまでしたいかをちょっとお聞きしたい。

○委員（13番 吉元 健人君） 僕はですね、絶対もう今日はある程度決めにゃけんっと思いなながらも、結末が自分の中で出てないんですよ。このそもそも百条委員会というものがすごい権威のあるものだと分かっているので、それを半年間、一生懸命皆さんの力、知恵を借りながら、僕も分からないながらに勉強してきて、最終報告が出るというときに、町の人たち、町民の人たちが要はどういうふう知っていただいて、どういうふう考えていただけるかということが重大だと思っているんですよ。で、この武道さんの文書を全く批判するつもりもないんですけども、先ほど言ったような疑義と、要は偽証ともたれるとか、そういうこう、何というんですかね、犯罪に関わる可能性のあるような文言ってほぼないじゃないですか。

でも、してる行為は、田原委員が今さっき言われたように、もう妨害してるみたいなことを僕はされていると僕も思っているんですよ。僕はですね。池亀さんはそうじゃないと言われてますが、僕はそう思ってるんですよ。もともとなかった証言が同日におんなじように出てくるわけですから。そういうことを、それは事実なので、ここでされたことは。

○委員長（武道 修司君） それは分かるんですよ。だから、最終的に今日報告書をまとめる方向で行くのか、もう……（「それはちょっと延ばそう。それは延ばす方向で」と呼ぶ者あり）いや、だけん、もう今日ね、宗さんはまだ終わってない、調査は終わってないちゅうて宗さんも言いよるし、だけん、これから先どういうふうなスケジュールで行くか。だけん、このままで行けば4日の日は当然報告もできないし、17日を過ぎれば終結もできないし、あとは調査を続けていっていただくしかないかなというふうになるんだろうと思うんです。

じゃけ、ちょっと、だからこの前からの協議の流れが、今日もう調査が終わってないちゅうふうに、もう調査、最終報告書をまとめましょうという流れでずっと会議してきたんですけど、そうじゃないちゅうふうになれば、ちょっとスケジュール的にはもう厳しくなってくるのかなといっって、無理やり私は終わらせようちゅうんじゃないんですよ。吉元委員。

○委員（13番 吉元 健人君） 本当に感謝してます、武道委員長には本当に。で、茶々も入れようと本当に思ってません。ただ、委員長に最後最終報告ももちろん出してほしいです、僕は。僕の思いです、今言いよるのは。出してほしいです、最終報告。

ただ、じゃあ例えば理屈的に――すみません、新人がこんなことを言うものじゃないとは思いますが、じゃあ例えば議長から年明けに臨時議会出してもらう、つくってもらうとか、いろんなパターンがあると思うんですよ。分かんないですけど。

○委員長（武道 修司君） できない。

○委員（13番 吉元 健人君） それはなぜですか。

○委員長（武道 修司君） 臨時議会は町長の（聴取不能）やけん。（発言する者あり）

○委員（13番 吉元 健人君） いや、できるはずですよ。できるはずですよ。

○委員長（武道 修司君） 請求はできるけど。（発言する者あり）じゃけ、招集はできるけど、議案をどうするかよ。

○委員（13番 吉元 健人君） いや、だけん僕はそこまで本当に重要なことだと思うんですよ。だって、20年間なかったことなんですよ、これ。

○委員長（武道 修司君） それを誰がまとめるんですか。

○委員（13番 吉元 健人君） いや、だけん武道さんができんだけでも、誰がまとめるんですかちゅうたら、もう今日決めなきやいけないちゅうふうな誘導には、俺、してほしくないんですよ。最後ここまでみんなだね、真摯に話したのに、威圧的に、武道さん、聞こえちゃうんですよ、

今もう、意見言えないですよ、こんなじゃ。（「1回ちょっと閉めようか」と呼ぶ者あり）

○委員長（武道 修司君） 調査を今からやると言っていて今から調査やるのに、まとめが間に合わないかなというふうに思ったんです。すみません、ちょっと事務打合せ今からやりましょう。議事録……。宗委員。

○副委員長（宗 裕君） あのね、あのねっていうしゃべり方になってしまいますけど、事実の一つなのにポンプ交換に関しては真っ向から対立する2つの証言が今でも出てて、池亀委員は下田さんの証言は信用できるとおっしゃってたら、吉元さんの証言がうそっていうことになりますよ。いや、その可能性確かにありますよ。だけど、そこはどっちかがうそだっていうふうなところまで持っていけないと、うそを言っていないほうに失礼だし。

それと、よく批判されるのが職員をいじめてる、おまえらはと。私、全く違ってると思ってるんです。これは課長をはじめ管理職、さらには町長、副町長がきちんと監督責任、指導を果たしてないからこんなことが起こってて、その指導を果たしてないことによって、一部の職員が暴走している感じもしてるんで、町長とか課長の知らないところでね。だけど、知らなくても管理監督責任は極めて大きいと思ってるんで、私、今出ているレベルでも、一部の課長や町長、副町長は引責辞任にしてもいいレベルの事態になっていると思うんだけど、あんな調子でのりくらり。

で、我々が、これ委員長の顔潰すんだけどね、最終報告書でこんな最終報告書のね、結局これだけ調査した挙げ句、疑惑が考えられるレベルの最終報告書だったら、生殺しみみたいな感じで、いたぶって、いじめて、何か中途半端ですよ。やっぱり私は調査は、今日の議論聞いてても、やはり調査は尽くされてない。もうはっきり断言できるところまで、責任、この人にはこれぐらいの責任があるというのをある程度踏み込むべきだと思ってる、それを考えるとね、私も、今月中の調査終結は、そこまで考えると無理だなと今朝から思い出しました。

実は前回の会議のときは、池亀委員がああいうふうにおっしゃったんで、6人全員がこれならよかろうという結論は、この委員長がまとめてくれた、このとおりですよ、現時点の6人全員がこれならよかろうって言えるのは。

○委員長（武道 修司君） 池亀委員。

○委員（14番 池亀 豊君） 今ちょっと、信用できると私が言ったって言ったんで……

○委員長（武道 修司君） 信用できるちゅうて言ってないよ。

○委員（14番 池亀 豊君） 今、宗さんが。（「ごめんなさい」と呼ぶ者あり）私、信用できると言ったんじゃないなくて、うそは言ってないと、一生懸命、自分の答えられる範囲で一生懸命答えていたと言っただけで、信用できるとか一切言ってないです。

○委員長（武道 修司君） 宗委員。

○副委員長（宗 裕君） 発言を訂正します。信用できないというのは私の誤解でした。うそ

を言ってないっていうこと、下田課長補佐がうそを言ってないっていうことになれば、証人で来てくれた吉元さんがうそを言ってるということにしか論理的にはならないですから。（「いやいや」と呼ぶ者あり）じゃ、両方うそを言ってないというのは、あれはあり得ないでしょう。

○委員長（武道 修司君） だから、思い込んでるちゅうことで言ってるんでしょう。

○委員（14番 池亀 豊君） 答えられる範囲で一生懸命誠実に答えていたと私は感じました。これはもう私の感じたことですので、それ以上じゃないです。

○副委員長（宗 裕君） 誠実とは、曖昧な記憶でしゃべってて、ほかの人が明確に証言してるんだったら、自分の記憶違いだったと認めてくれればいいんだけど、それはしてない。

○委員長（武道 修司君） 宗委員、ちょっともう職員の批判の話になってしまうので、ちょっとそこは。

○副委員長（宗 裕君） いや、それが必要だって言ってるんですよ。覚悟を持ってやらないと。

○委員長（武道 修司君） ちょっと待って。ここはちょっと本人がおってるわけやないんで。田原委員。

○委員（4番 田原 宗憲君） 一応今、宗さんが言うたのが12月17日には無理ですちゅうふうな今即答したんですけど、基本的には一応最終報告はこのメンバーでお願いしたいんですね。新規でまたするというのも正直できないので、この6人の中で最終報告を私は出していただきたい。

ただ、その方法として、12月17日にこだわるんじゃないかって、これもし、何ですかね、具体的にところは具体的に明記してもらって、中途半端に終わらないようにしていただきたい。これが、だから12月17日にこだわらなくて、1月、例えば臨時議会を、例えば20日前とか何か決まりがなかったですかね。議案に対しては、この百条委員会の最終報告の報告っていう議案でも多分いいと思うんですけど。

○副委員長（宗 裕君） 局長、その辺はどうなの。私もちょっとよく分かんなくて。定例会会期中は受けたわけ。

○委員長（武道 修司君） じゃけ、極端に言うと、後で事務打合せしましょうや、これ。あんまり議事録にも載せたくないの。

○委員（4番 田原 宗憲君） じゃけ、とりあえず4日の日は最終報告は出さないということで。

○委員長（武道 修司君） いや、まだそれも含めて今から協議をしましょう。

○委員（4番 田原 宗憲君） それはもうないということでもいいんやないですか。

○委員長（武道 修司君） だけん、それも含めてね、今からちょっと協議しましょう。それじゃ、いいですか。（「閉めてください」と呼ぶ者あり）はい。なら、ここで一旦もう終わりたいと思

います。

それでは、第27回特定業者との随意契約に関する調査特別委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

午後3時50分閉会
